

技能検定
電子機器組み立て3級

知事表彰受賞

大澤隆世くん

おおざわ たかせ

ジュニアマイスター
顕彰制度

特別表彰受賞

中山大雅くん

なかやま たいが



→中山くん(写真右)危険物取扱者免状と技能検定合格証書を手に入れた。大澤くん(同左)第一種電気工事士合格証書と陸上三千m障害で獲得した賞状を手に入れた。

第59回卒業式 184名の集立ち



印刷所 ひがし印刷
TEL 0748-46-2108

本日十時より本校体育館にて、第59回卒業証書授与式が挙行される。昨年同様、新型コロナウイルス対策の観点から在校生の列席はない。式中で、生徒会長の宮瀬葵くんが在校生代表として、精一杯のエールを届けたい。

中山くん 最難関 危険物甲種合格・機械科だけ第二種電工も
「コツコツは無理 追いついてギリギリ直前に詰め込む」

卒業生は二年・三年の二年間を、感染対策をして過ごしてきた。突然の休校や行事の中止・縮小を数多く経験した学年だ。制約も多かった中で、どうやって己に磨きかけたのか。二人に話を聞いた。長いようで短い八工生活をどう過ごすべきかが、在校生に問われている。



行け行け八工生 八工魂どこまでも

ジュニアマイスター 受賞者一覧

- 【特別表彰】 中山大雅(3-2)
- 【ゴールド】 村田達哉(3-1) 西村仁輝(3-2) 大神 凜(3-2) 西川白徒(3-4)
- 【シルバー】 長瀬阜太郎(3-1) 大澤隆世(3-3)
- 【ブロンズ】 上田達也(3-1) 北川大佑(3-3) 佐々木悠斗(3-4)

本校電気科で、皆が挑戦する第二種電気工事士。前期で第二種を受験し、合格したら後期で第一種に挑戦するのが通例だ。大澤くんが二年生の年は、コロナのため前期試験が中止となった令和二年。後期に第二種・第一種を同時受験することに。朝、朝顔を続け、秋に筆記試験に合格した。その後、連日の放課後居残り訓練が始まる。第二種の技能を二つ、第一種の技能を二つ、毎日三時間ほどの練習を繰り返した。電気は目に見えないが、頭でイメージを膨らませて考えるのが面白かった。

大澤くん 「資格も部活も自分がやりたいと思ったことはすべてした」

陸上部部長として「ついてきてくれた皆に感謝」

「作業するということより、考えて構想する電気の仕事が自分に向いていた」と分析する。同時期、部長を務める陸上部では十一月の駅伝大会に向けて練習に取り組んでいた。

「八工魂を地でいった 文武両道のお手本」 陸上部顧問亀田先生

技能練習を終え、ラスト一時間走り込む。帰宅は九時〜十時だった。めっちゃ頑張った二年生の冬。結果は見事、第二種・第一種合格。駅伝では第一走10kmを走り、目標だった「中盤の順位で後続につなぐ」こと

「資格勉強のため、部活に参加できない時もあった。副部長の村田くんがチームのために尽くしてくれた。三年生の他のメンバーも最後の春に向けて進んで自主練してくれて」という。亀田先生は「僕は主

まどめるのも得意じゃなかった」「それでもついてきてくれた皆に感謝している」と語った。「顧問の先生も、本当に忙しい中僕らのために動いてくださった。各種大会・練習会に出させてもらって、いろんな機会を与えてもらった。

「あんまり勉強したくない」派の中山くんが頑張った原動力はなんだったのか。一言でいうと「就職」だ。高校を卒業して、次に行くところ。「人生の大半が就職で決まると思っていた」という。特に志望企業ややりたいことが明確ではなかったがゆえに「いろんなものを受けた。どんなことにも挑戦できる」という強みを掴み取った。これから飛び込んでいくステージを前に、よい意味での「焦り」があった。

実際の就職試験では、面接でも資格取得についてPRできたし、資格欄はたくさんある。特にガツガツいくタイプでもない。けれど「受けるなら合格しないとイヤだ」と言い切った。

あなたへの人生は、もう間もなく折り返しを迎えます。(川)

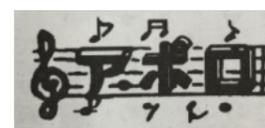
中山大雅くんは、三年生で唯一ジュニアマイスター顕彰制度で特別表彰を受賞した。ジュニアマイスター顕彰制度とは、検定や資格の難易度に合わせ得点が決められているもの。三年間で合計30点以上でシルバー、45点以上でゴールドが授与される。60点以上で特別表彰だ。中山くんは60点で特別表彰に到達した。中学の頃から「勉強や大学進学にあまり興味なかった」という中山くん。就職先が選ばれてくる本校を志望した。

テスト前だけは「そこそこ勉強する」けれど、普段は特段勉強したことはなかった。高校一年生の二学期、担任の高山先生に勧められ、危険物乙四の受験を決めた。試験日は刻々と迫るも、勉強はやって一日30分程度。気づけば一週間前、読み進めたテキストは20ページ程度だった。し

「勉強したくない派 でもやらなあかんことはやるんです」 就職が魅力の八工 高山先生と友達と一緒に乗り越えた

「普通しない復習もした。合格か不合格かは半々くらいの感触だった」そうだが結果は合格。甲種に受かったことは「自信になりました」と振り返る。

「残りの半分は自分です。」「ジャネーの法則」というものを存じだろか。簡単に言うと、年をとるにつれて体感時間は短くなるというのだ。5歳の子供において、一年は人生の1/5に相当する。しかし、50歳では1/50でしかない。「あれ？もう一年経った？早いな」とか思っているそのあな。体感時間、短くなつてますよ。この理論を基に考えると、人生とこの18歳前後で半分を終える。なんと哀しいことだ。だがしかし、これを打ち破る方法が一つだけある。それもジャネーの法則は「年を重ねるにつれて新たな発見が少なくなる。惰性で毎日過ごすようになる」という考えに基づいたもの。ならば、新しい発見を繰り返せばよいのだ。大それた発見でなくともいい。小さなことでもいい。何か新しい要素を常に人生に取り入れ続ける。これが大切だ。進学した先で勉強をしながら毎日色んなことをして遊ぶもよし。就職した先で新たな生きがいというものが当然あるだろう。そういった変化に斜に構えるのではなく、全力で楽しもう。「マジつまんね」とか普段から思っているその君。面白くないのは周囲ではなく、物事を面白がる感受性に欠ける君自身ではないだろうか。私はそう思う。人生とは出会いと別れの連続である。出会いは人生を豊かにし、別れは人生を深くする。別れから生まれる出会いもある。こうして人生に新しい要素が増えていく。人生とは出会いと別れの連続である。しかし卒業は別れではなく門出だ。笑って見送ろう。ちなみには今までに多くの別れを経験してきたが、論吉さんとの別れが一番悲しいもの。早く栄一さんと出会いたくありません。



あなたの人生は、もう間もなく折り返しを迎えます。返しにも、冗談を言っているわけではない。自分の進路が決まり、広い世界へ旅立ちとうとう人生。それは人生の残り半分なのです。」「ジャネーの法則」というものを存じだろか。簡単に言うと、年をとるにつれて体感時間は短くなるというのだ。5歳の子供において、一年は人生の1/5に相当する。しかし、50歳では1/50でしかない。「あれ？もう一年経った？早いな」とか思っているそのあな。体感時間、短くなつてますよ。この理論を基に考えると、人生とこの18歳前後で半分を終える。なんと哀しいことだ。だがしかし、これを打ち破る方法が一つだけある。それもジャネーの法則は「年を重ねるにつれて新たな発見が少なくなる。惰性で毎日過ごすようになる」という考えに基づいたもの。ならば、新しい発見を繰り返せばよいのだ。大それた発見でなくともいい。小さなことでもいい。何か新しい要素を常に人生に取り入れ続ける。これが大切だ。進学した先で勉強をしながら毎日色んなことをして遊ぶもよし。就職した先で新たな生きがいというものが当然あるだろう。そういった変化に斜に構えるのではなく、全力で楽しもう。「マジつまんね」とか普段から思っているその君。面白くないのは周囲ではなく、物事を面白がる感受性に欠ける君自身ではないだろうか。私はそう思う。人生とは出会いと別れの連続である。出会いは人生を豊かにし、別れは人生を深くする。別れから生まれる出会いもある。こうして人生に新しい要素が増えていく。人生とは出会いと別れの連続である。しかし卒業は別れではなく門出だ。笑って見送ろう。ちなみには今までに多くの別れを経験してきたが、論吉さんとの別れが一番悲しいもの。早く栄一さんと出会いたくありません。